

Responsible Care NEWS

2018 夏季号



レスポンシブル・ケア®



一般社団法人日本化学工業協会 第27回定時総会が開催されました



第27回となる日化協定時総会が、5月24日パレスホテル東京にて開催されました。

総会は、正会員数256名のうち、231名(委任状出席者163名を含む)の出席の下で開催されました。石飛会長が議長をつとめ、下記議案について審議が行われ、いずれも異議なく、原案の通り承認されました。

議案

1. 報告事項

2017年度事業報告及び決算報告の件

2. 審議事項

第1号議案 2018年度事業計画案及び収支予算案の件

第2号議案 理事24名選任の件

第3号議案 監事2名選任の件

開会にあたり、石飛会長より、次のような退任の御挨拶がありました。『2年前に会長に就任致しました際、日化協が取り組むべき課題として、①安全確保の取り組み、②化学品管理の取り組み、③持続可能な社会実現への貢献、の3つを重点テーマとして掲げ、活動して参りました。①については、昨年、鉄鋼・化学・製紙の3団体が参加する「製造業安全対策に関するトップ会談」が初めて行われ、経営層自らが強いリーダーシップを発揮し、諸施策を講じていくことの重要性を再認識致しました。②については、科学的根拠に基づくリスクベースでの管理が世界の潮流であり、リスクの最小化並びに企業の国際競争力確保の観点から適切な見直しが必要となるよう、行政に対して働きかけを行った他、SC全体に対して啓発活動や実務者支援を行って参りました。③については、化学産業が果たすべき重要な役割の一つが地球温暖化への対応です。日化協が取り組んでおります低炭素社会実行計画につきましては、温室効果ガス排出量削減目標を上回る成果が2年連続で得られたため、目標の見直しに着手致しました。またSDGsにつきましては、AIやIoTなどの先端技術を活用して経済成長につなげるという国のビジョンが掲げられる中、化学業界がイノベーションの一翼を担い、今後も新たな価値創造を通じて、産業の発展を導き、支え続けて行くことを

願ってやみません。本日から淡輪会長の下、新体制が発足します。今後日化協の活動がさらに進化し、化学産業の繁栄のために一層貢献されますことを祈念致しまして、退任のお礼の言葉とさせていただきます。』

議事

会議開催に先立ち、議長より、日化協独占禁止法遵守ガイドラインを確認し、適法で会議を運営することが宣言されました。

報告事項 2017年度事業報告及び決算報告の件

議長の指示により、渡辺専務理事が、2017年度事業報告及び収支決算報告の各案は、5月9日の監事による監査を経て、5月14日開催の総合運営委員会、5月16日開催の審議委員会、5月18日開催の理事会において、それぞれ承認を得ている旨を報告し、内容について説明を行いました。引き続き、監事を代表して小林明治監事が、5月9日に開催した監事会において、2017年度事業報告書、及び決算報告について監査をした結果、記帳等はいずれも正確であり、また経費の支出も適正かつ妥当であったことを報告しました。

第1号議案 2018年度事業計画案及び収支予算案の件

次に議長の指示により、渡辺専務理事が、2018年度事業計画及び収支予算の各案は、3月12日開催の総合運営委員会、3月14日開催の審議委員会、3月16日開催の理事会において、それぞれ承認を得て提案されたものである旨を報告し、その内容についての説明を行いました。

後、議長が本件原案通り承認願いたい旨を議場に諮ったところ、全員異議なく原案通り可決承認されました。

第2号議案 理事24名選任の件

次に議長の指示により、渡辺専務理事が、定款第13条及び第18条第4項に基づき、理事24名の選任につき、1名ずつ候補者名を読み上げ、各候補者ごとに、議長より原案通り承認願いたい旨が議場に諮られ、全員異議なく、理事24名それぞれの選任が原案通り可決承認されました。

第3号議案 監事2名選任の件

次に議長の指示により、渡辺専務理事が、定款第13条及び第18条第4項に基づき、監事2名の選任につき、1名ずつ候補者名を読み上げ、各候補者ごとに、議長より原案通り承認願いたい旨が議場に諮られ、全員異議なく、監事2名それぞれの選任が原案通り可決承認されました。

閉会

議長は以上をもって、一般社団法人日本化学工業協会第27回定時総会の全議事を終了する旨を述べ、議場にその協力を感謝し閉会を宣言しました。

化学が持つ無限のポテンシャルを発揮し 化学産業の更なるプレゼンス向上へ

現在、世界は劇的な変化に直面しております。IoT、AI、電子商取引の爆発的な発展に伴う社会インフラの変化を受け、たとえば自動車産業は、100年に一度の大変革期を迎えているともいわれております。一方で、地球温暖化、そして昨今特にヨーロッパを中心に話題が上がっております海洋ゴミ、マイクロプラスチックといった環境問題、資源・エネルギー問題、食糧問題や貧困問題など、持続可能な社会の実現を脅かす多くの社会課題が発生しております。

化学産業は、こういった社会課題の解決を通じて、持続可能な社会の実現に貢献できる無限のポテンシャルを秘めていると強く信じております。そのようなポテンシャルを示し、化学産業のプレゼンス向上に貢献するため、次のようなポイントで日化協の活動を進めてまいります。

1. 「操業および製品にかかわる安全の強化」

化学産業は、レスポンシブル・ケア(RC)倫理に基づき、化学品の開発・製造から使用・消費・リサイクル・廃棄に至る全てのライフサイクルにおいて、環境・健康・安全に配慮することが強く求められます。特に、操業面での保安・安全の確保は最重要のテーマです。残念ながら近年も深刻な事故が発生している状況は変わっておらず、継続的な取り組みが必要であると考えます。「環境・健康・安全に関する日本化学工業協会基本方針」のもと、「安全確保の取り組みが新たな価値を生み出していく」という一歩踏み込んだ視点を継承し、各種取り組みを実施してまいります。

また、製品にかかわる安全確保の取り組みについては、持続的発展に向けたリスクベースの化学品管理の普及及び促進を継続してまいります。

2. 「新たな価値の創造と持続可能な社会の構築への貢献」

化学産業はこれまで革新的な素材や技術を通じて、様々な産業に新たな価値を提供し、その成長を支えてきました。今後は、新たな価値の創造によって幅広い産業の成長を支えていくことに加え、持続可能な社会の構築に貢献することが化学産業の使命であると考えます。

新たな価値の創造につきましては、低炭素社会、炭素循環への対応技術掘り起しや、「日化協 技術賞」の継続等を通じ、革新的で優れた科学技術や製品の創出を促進してまいります。また、新たな価値を生み出すベースとして、国際的な事業環境のイコールフットリングを目指し、関税、アンチダンピング等各種の通商課題や化学品管理に係る規制の国際整合性といった課題に関し、行政当局等関係機関に継続して意見具申を行ってまいります。

持続可能な社会の構築への貢献につきましては、RC活動を基盤として、国連で採択されましたSDGsに具体的にどのように取り組んでいくかがポイントになると考えております。会員企業が取り組んでおられる活動が世の中に発信されプレゼンスが向上するよう、活動事例集の作成を通じ、化学産業が社会課題に対するソリューションプロバイダーであることを発信いたします。

また、近年非常に大きな話題となっております、海洋ゴミ、マイクロプラスチック問題につきましては、実際の数量等いろいろなファクトが非常に曖昧なまま、課題だけが大きく取



りざたされているという認識です。現在、日化協を含む5団体で協議会を立ち上げる準備を進めており、その中でいろいろなファクトや対応方針を決定し、ICCA等に対し日本の立場や考えを発信してまいります。

3. 「社会とのコミュニケーション強化」

社会とのコミュニケーションはRC活動の重要な取り組みの一つとして位置づけられております。また、化学産業のプレゼンス向上を図る上でも、世の中の多くの方たちに対し、化学産業の重要性とポテンシャルの大きさについて、正しい理解を促すことが重要だと思っております。今後も、幅広い機会を捉えて社会とのコミュニケーション強化を図ってまいります。

具体的には、地域対話や市民対話といったRC委員会による対話WG活動、日化協アニュアルレポートの発行、夢・化学—21事業の活動等を通じ、引き続き化学産業の取り組みと成果を発信していきたいと思っております。

我々は、より便利でより快適に、という人類の本質的な欲求を満たしつつ、一方で持続可能な社会を実現するという、時として相反する課題に直面しております。この課題を同時に解決することは簡単なことではなく、様々な知恵やイノベーションが必要となりますが、化学の持つ無限のポテンシャルを示すチャンスでもあると思います。化学の力なくしてこの課題は解決できないことでしょう。

化学産業が持つ無限のポテンシャルを最大限に発揮できるよう、会長として協会をリードしていきたいと思っております。皆様のご支援を賜りたく、どうぞよろしくお願いいたします。

安全賞、技術賞、 レスポンシブル・ケア賞の 表彰式を実施

5月24日パレスホテル東京にて開催されました日化協定時総会に先立ち、日化協安全表彰(最優秀賞、優秀賞、優秀(特別)賞)、日化協技術賞(総合賞、技術特別賞、環境技術賞)、日化協レスポンシブル・ケア賞(RC大賞、RC審査員特別賞、RC優秀賞)の表彰式が執り行われました。今回表彰されたのは以下の方々です。

第42回 日化協 安全表彰

【安全最優秀賞】

- ・住友化学株式会社 大江工場
(住化アッセンブリーテクノ株式会社含む)

【安全優秀賞】

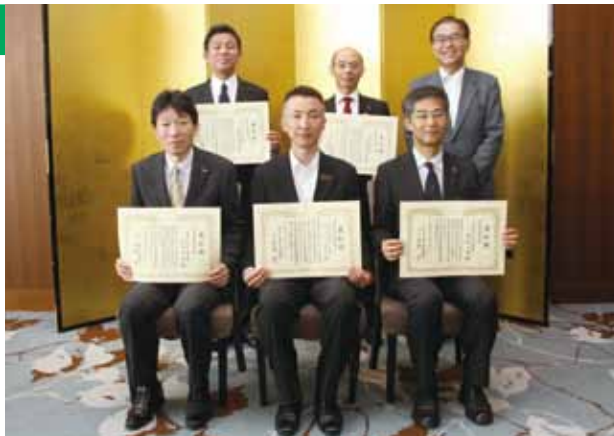
- ・昭和電工HD山形株式会社 本社工場

【安全優秀賞(特別：中小規模事業所)】

- ・日本エラストマー株式会社 大分工場

【安全優秀賞(特別：研究所)】

- ・住友化学株式会社 筑波地区研究所
- ・新日鉄住金化学株式会社 総合研究所(木更津地区)



第50回 日化協 技術賞

【総合賞】

- ・田辺三菱製薬株式会社：逆転の発想が生んだ糖尿病治療薬『カナグリフロジン』

【技術特別賞】

- ・東レ株式会社：タッチパネル用感光性導電ペーストの開発

【環境技術賞】

- ・東ソー株式会社：排水用重金属処理剤『TX-55』の開発



第12回 日化協 レスポンシブル・ケア賞

【RC大賞】

- ・花王株式会社 SCM部門
花王生産事業場での環境負荷低減活動

【RC審査員特別賞】

- ・旭化成株式会社 守山製造所
地域社会との共生を目指した生物多様性保全活動
- ・株式会社クレハ 生産・技術本部 いわき事業所
「CSR地域対話集会」および双方向コミュニケーション紙「にしき」を通じた、地域との継続的なコミュニケーション

【RC優秀賞】

- ・住友化学株式会社 愛媛工場
効果的・効率的な化学物質リスク評価に向けた製造現場からの提案
- ・日本化薬株式会社グループ
クリーン・エコ・テクノロジー プロジェクトチーム
全社廃水処理プロジェクトの立上げによる廃水処理技術の向上と技術者育成



- ・三井化学株式会社 物流部 安全品質グループ
三井化学の物流RC活動 -「思い」を伝えて-
- ・三菱ケミカル株式会社 「三菱ケミカル特別管理化学物質」自主管理推進プロジェクトチーム
化学品の盗難・紛失および悪用防止のための自主的な管理強化

第12回 日化協レスポンシブル・ ケア賞受賞各社の活動概要

6月22日開催の「レスポンシブル・ケア活動報告会(東京)」において、第12回日化協レスポンシブル・ケア賞を受賞された7社の代表の方々による受賞講演(活動内容の紹介)が行われました。



賞名	受賞者	表彰テーマ	活動概要
RC大賞	花王株式会社 SCM部門	花王生産事業場での環境負荷低減活動	CO ₂ 削減では、エネルギー源の石油から都市ガスへの転換、ガスコジェネの導入等で排出原単位を半減。廃棄物削減は、自社で或いはセメント会社等とリサイクル法を開発して推進。フロン排出抑制は、フロン排出抑制法の活動に加え、点検整備後の三者確認や漏洩検知器を用いた確認などで達成。更に各工場で「草の根活動」を展開。これらの取り組みは、技術ごとの横串活動と部門間連携、システム化で全面的にサポートされ、全社で大きな成果を挙げている。
RC審査員特別賞	旭化成株式会社 守山製造所	地域社会との共生を目指した生物多様性保全活動	生産活動に必要な工業用水の全てに地下水を利用する中、間接冷却水として利用した地下水は、水質確認後、周辺の河川に放流。この放流された水は農業用水や生活用水として利用され、地域に欠かせない水となっている。2010年度から、事業と水との関わりを踏まえ、水をテーマとした生物多様性保全活動を開始。現在は「水源地とその周辺に生息する生物の保全」に取り組み、地域環境と共生を図りつつ事業の発展を目指している。
	株式会社クレハ 生産・技術本部 いわき事業所	「CSR地域対話集会」および双方向コミュニケーション紙「にしき」を通じた、地域との継続的なコミュニケーション	過去15年間、クレハグループは単独で「CSR地域対話集会」を毎年開催。双方向コミュニケーション紙「にしき」も年3回定期的に発行し、グループのRCを含めたCSR活動について地域との対話を行っている。この対話は、地域との良好な関係を築くとともに、CSR活動の継続的改善を推進する原動力となっている。さらに本活動は、企業のリスクコミュニケーションの模範例ともなっており、福島県からの依頼で講演も行っている。
RC優秀賞	住友化学株式会社 愛媛工場	効果的・効率的な化学物質リスク評価に向けた製造現場からの提案	労働安全衛生法改正を機に、更なる安全確保を目的として、現場が慣れ親しんでいる設備リスクアセスメント(RA)と同様の手順で多種多様な化学物質のRAを簡単かつ迅速に実施できる手法を、現場と連携して構築。現場の実態に即して、個人ばく露を抑える保護具の効果はこの評価手法に取り込んだ点が工夫の一つ。またこの取り組みは、化学物質のリスクに対する現場の認識を深め、本手法の提案と共に、現場の安全文化の醸成に大きく寄与している。
	日本化薬株式会社 グループ クリーン・エコ・テクノロジープロジェクトチーム	全社廃水処理プロジェクトの立上げによる廃水処理技術の向上と技術者育成	環境規制を先取りする廃水処理技術の向上を目指して、2012年10月にクリーン・エコ・テクノロジープロジェクトを発足させた。そして、年々厳しくなる環境規制や社会的要請を踏まえて将来への不安を先取りし、環境に優しい安定・安全な廃水処理技術で国内外の工場を運営することを実現した。併せて、廃水に関する勉強会・交流会等による技術者育成、「廃水を考慮した開発」などによる研究者の意識改革にも取り組んだ。
	三井化学株式会社 物流部 安全品質グループ	三井化学の物流RC活動 -「思い」を伝えて-	全ての実物流業務を協力会社へ委託する中、「安全は全てに優先する」との「思い」を如何に現場へ伝えていくか、現場との距離感が生じないか、という課題に対して現場に密着した活動を行い、物流トラブル低減や労働安全衛生向上で成果を挙げた。また環境保全のためモーダルシフトにも取り組みGHG削減に努力。物流事故では「最寄りの工場から対応部隊派遣」という独自体制を構築。同業他社に働きかけ、業界全体の物流安全品質向上にも努力した。
	三菱ケミカル株式会社 「三菱ケミカル特別管理化学物質」 自主管理推進プロジェクトチーム	化学品の盗難・紛失および悪用防止のための自主的な管理強化	本活動では、三菱ケミカルグループが保有、製造、販売している化学物質のうち、盗難・紛失等により悪用されるリスクのある化学物質を「MCC特別管理化学物質」として定めた。そして、独自に作成したガイドラインをもとに、製造・物流・譲渡を含むサプライチェーン全体の関係者が、このMCC特別管理化学物質の盗難・紛失等のリスクを未然に防ぎ、社会的な悪用を防止するため、法の定めを超えて、自主的な管理活動を推進している。



2018年 安全シンポジウムを開催

2018年 第42回日化協安全最優秀賞、安全優秀賞が決定し(P4参照)、6月21日に安全シンポジウムを発明会館(東京虎ノ門)にて開催しました。

住友化学株式会社

大江工場

(住化アッセンブリーテクノ含む)

園部純也 環境・安全部長



- 大江地区は、1958年に我が国初のエチレン生産を行い、日本の石油化学工業の先駆けとなりましたが、2009年に愛媛工場より分離独立し、次世代を担うエネルギー機能材料、ICT関連製品の生産拠点へと生まれ変わりました。現在は住化アッセンブリーテクノ株式会社と共に、国内外グループ会社を主導する生産拠点を目指し努力を続けております。
- 当社は「安全をすべてに優先させる」を基本とし、住友の事業精神に則り、社会の発展に幅広く貢献する製品を開発、生産、供給することを使命と考え、「無事故無災害」「地域社会との共存共栄」「顧客重視」を基本理念として活動しております。無事故・無災害を実現する自律的な集団を目標に、自分達の特徴を踏まえ、安全衛生、保安防災、開発工業化の観点で安全基盤の整備を、トップの想いの伝達・共有化、現場ラインの機動的活動、職務規律遵守等の安全文化の定着を目指し取り組んでいます。
- これまでの取り組みの中で感じていることは、「安全活動には、皆で思いを合わせ、最新の技術・手法も取り入れながら、組織力を発揮できるマネジメントが欠かせない」ということです。これらを念頭に、今後も安全確保に取り組んでまいります。御安全に。



昭和電工HD山形株式会社

本社工場

青木隆明 取締役事業所長



- 昭和電工HD山形は、昭和電工グループのハードディスクドライブ(HDD)向けメディア生産拠点のひとつとして2009年に発足し、現在はデータセンター向けHDDに用いられるメディアを主力に生産しております。
- 当社における安全活動は、職制毎の小集団をベースにKYT、ヒヤリハット、リスクアセスメントを基本ツールとして展開しております。風通しの良い職場環境づくりを念頭に、社員と事業場内常駐の協力企業との協働で活発な取り組みを展開した結果として、無災害労働時間700万時間を達成し、現在も無災害を継続しております。

- 当社は、IoTの伸張を支えるデータセンター向けHDDメディアの生産を更に前進させるとともに、今後とも、『事業継続のベースは安全・安定操業、環境トラブルゼロにある』ということ念頭に、安全で健康な職場を築いてまいります。



日本エラストマー株式会社

大分工場

古野利行 取締役工場長



- 当社は省燃費タイヤをはじめ樹脂改質や粘接着といった幅広い用途に使用される合成ゴムを製造しています。
1972年に旭化成と昭和電工の合弁会社として設立され、大分石油化学コンビナートの構成企業の一つであります。
- 安全活動の特徴は目新しい活動を行っているのではなく「ヒヤリハット、危険予知、指差呼称、工場長パトロール」など、工場設立から愚直に続けているものばかりであり、しつこく続けることが安全文化として根付くものと信じて全員参加で取り組んでいます。唯一新しい活動として「保安防災技術伝承活動」があり、過去の保安トラブルやプラントのリスク・ハザードの把握とそれらの対処方法の訓練を実施し伝承することで、世代交代や管理者交代時の安全レベルの維持・向上を図っています。
- 安全は経営の最重要課題と認識し、これからの安全活動もこれまで通り妥協せずこだわりを持って愚直に続けていくことで、更なる安全意識と感度の向上に努め、自慢のできる工場を目指して努力してまいります。



住友化学株式会社

筑波地区研究所

内田義男 先端材料開発研究所長



- 当研究所は、1989年に開所し、新たな事業創出を目的とした先端材料開発の拠点として、ICT、環境・エネルギーなどの分野における高機能な新材料の研究開発を幅広く行っています。
- 「安全をすべてに優先させる」という当社の基本理念の下、当研究所では2002年よりOSHMSを導入し、安全ライン管理者、従業員、安全スタッフがそれぞれ

の立場で当事者意識を持ち、トップダウンとボトムアップをバランスよく融合させながら、職場での自立した安全活動を展開しています。

- ゼロ災害継続に向けて、これまで継続的な改善を重ねてきたOSHMSを基盤に安全活動を着実に実行し続けるとともに、個々人が危険・有害要因を十分に把握・予知し、それを職場内で共有することで上司から部下への安全指導は勿論のこと、仲間同士で気兼ねなく相互注意できるレベルにまで安全文化を深化させることを目指します。



新日鉄住金化学株式会社

梶正史 総合研究所長



- 当社は製鉄プロセスから副生する原料をベースとした事業を展開しており、芳香族化学品や炭素材料等の基礎素材製品からスマートフォン等に使用される機

能材料製品まで幅広く取り扱っています。研究所・木更津地区は主に回路材料や光学材料を中心とした機能材料に関わる研究開発を行っています。

- 昨年6月にレスポンシブル・ケア活動指針を改訂し、生産や品質よりも安全・環境・防災を最優先とすることを明確に掲げました。トップ層はこれを全社員に浸透させるとともに、その実行についての責任を負うとの指針も示され、全社員が一丸となって安全活動に取り組んでいます。
- 安全上の最大の敵はマンネリ化と慣れからくる気の緩みです。安全対策に特段の秘策はなく、決めたことをしっかり守る、自分達の職場を少しでも良くするために5Sを徹底するといった基本的なことを重視しています。そのためにはそれぞれが自分の仕事に喜びを見出すことが大切です。当研究所では「明るく、きれいに、礼儀正しく」をスローガンに安全で快適な職場づくりに取り組んでまいります。

パネルディスカッション



鈴木議長

パネルディスカッションでは、鈴木安全表彰会議議長の司会の下、事例紹介いただいた5事業所の代表と日化協常務理事の永松がパネリストとして参加し、無災害の継続のために事業所トップとして何に注力しているのか、

実践している安全活動のポイントについて、また職場に潜む危険源の特定と対策を実施する仕組みの構築についても討議を行いました。

続く会場アンケート質問では、働く一人ひとりのレベルで安全意識をどのように啓発し、継続的に向上させていくのか、その進捗をどのようにモニタリング、評価するのかといったボトムアップの議論とトップは自らの安全意識をどのようにレベルアップしているのかという、パネラー自身の体験や考え方についても議論されました。今まさに働く現場の切実な課題になりつつある、安全管理業務の精度アップと業務時間の効率化という難題についても議論が行われ、各パネリストから貴重なご意見をうかがうことができ大変有益な場となりました。

ディスカッションの結びに永松常務理事より討議全体に対する感想として、「今回の5事業所には

電子関係の組み立て業務が主の事業所、また研究関連の事業が含まれていたが安全の基本に変化のないこと、また組織の一体感やコミュニケーションのあり方の重要性が改めて明確になったこと、全体として共通していることは、一人ひとりが自分の事業所の安全は自分で守るという意識が強いことが改めて実感できました。今日の話は参加いただきました皆様の事業所にとっても大いに参考にできる内容であったと思います。日化協としては可能な限り多くの場で紹介していきたいと思います」とのコメントがありました。

最後に鈴木議長から参加いただきました皆様へ、今回の貴重な意見交換を、更なる保安・安全の推進に役立てていただきたいとお言葉をいただき、閉会となりました。



Index

一般社団法人日本化学工業協会第27回定時総会が開催されました	2
淡輪 敏 新会長挨拶	3
安全賞、技術賞、レスポンシブル・ケア賞の表彰式を実施	4
第12回 日化協レスポンシブル・ケア賞受賞各社の活動概要	5
2018年 安全シンポジウムを開催	6
RC委員会だより	8

RC委員会だより

☆会員動向 (会員数：115社 2018年7月末現在)

入会

- ▶ 荒川化学工業(6月1日付)
- ▶ インフィニウムジャパン株式会社(7月1日付)

☆行事予定

- 9月7日 第2回SDGs部会・セミナー
- 9月27日～28日 リスクコミュニケーション研修(大阪)
- 10月12日 地域対話(四日市)
- 10月26日 会員交流勉強会(神奈川)
- 11月8日 地域対話(岡山地区)
- 11月9日 地域対話(山口東地区)
- 11月15日 消費者対話(大阪地区)
- 11月19日 消費者対話(東京地区)
- 11月29日 会員交流会(小倉)

表紙写真の説明

ダイセル大竹工場

風光明媚な瀬戸内海に面したダイセル大竹工場。新設プラントの光沢が青空に映えます。島影は日本三景として名高い安芸の宮島です。

株式会社ダイセル提供

編集後記

- 今年の夏は、春号で危惧した通りの異常高温で始まり、豪雨災害に台風災害と、地球温暖化の影響を強く感じざるを得ないものとなりました。被災された方々には、心よりお見舞い申し上げます。我々のRC活動が、少しでも復興支援と温暖化の抑止につながりますように。
- 表紙を飾るプラント写真を大募集中です。皆様、御協力を御願いたします。

RC NEWSのバックナンバーは、以下のアドレスにてご覧いただけます。

▶ <https://www.nikkakyo.org/organizations/jrcc/rc-news-page>